

日々是Oracle APEX

Oracle APEXを使った作業をしていて、気の付いたところを忘れないようにメモをとります。

2023年1月19日 木曜日

Microsoft OneDriveを操作するAPEXアプリの作成(3) - Graph APIのテスト

APEXアプリケーションにサインインしたユーザーで、OneDriveの操作を行うAPIを呼び出して応答を確認します。

Microsoft Graph APIはOData（Open Data Protocol）に対応しているとのことなので、以下のAskTOM Office Hourで紹介されているODataのREST Data Sourceプラグインを使用できるかもしれません。

APEX and OData? REST Data Sources at your service!

<https://asktom.oracle.com/pls/apex/asktom.search?oh=19326>

ODataプラグイン自体はGitHubからダウンロードしてインストールします。

<https://github.com/oracle/apex/tree/22.2/plugins/rest-source/odata-rest-apis>

ODataプラグインについては改めて調べることにして、本記事ではGraph APIを直接呼び出します。

すでに作成されているホーム・ページに、Graph APIの応答を表示する機能を実装します。

Bodyにページ・アイテムを作成します。

識別の名前はP1_MS_GRAPH_API、タイプはテキスト・フィールド、ラベルはMS Graph APIとします。このページ・アイテムにGraph APIのURLを入力します。



Graph APIを呼び出すボタンを作成します。

識別のボタン名をSUBMIT、ラベルをSubmitとします。動作のアクションとして動的アクションで定義を選択します。



新規にリージョンを作成します。

識別のタイトルは**Graph API Response**とします。タイプとして動的コンテンツを選択します。APEX 22.2で新設されたリージョン・タイプで、リフレッシュに対応しています。

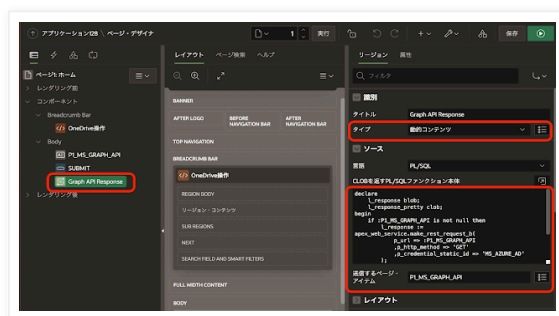
ソースのCLOBを返すPL/SQLファンクション本体として、以下を記述します。

```
declare
    l_response blob;
    l_response_pretty clob;
begin
    if :P1_MS_GRAPH_API is not null then
        l_response := apex_web_service.make_rest_request_b(
            p_url => :P1_MS_GRAPH_API
            ,p_http_method => 'GET'
            ,p_credential_static_id => 'MS_AZURE_AD'
        );
        select json_serialize(l_response returning clob pretty) into l_response_pretty from dual;
    end if;
    return '<pre><code>' || l_response_pretty || '</code></pre>';
end;
```

test-microsoft-graph-api.sql hosted with ❤️ by GitHub

[view raw](#)

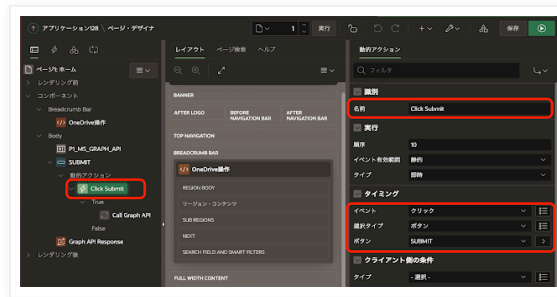
送信するページ・アイテムとしてP1_MS_GRAPH_APIを設定します。



ボタンSUBMITをクリックしたときに、リージョンGraph API Responseをリフレッシュする動的アクションを作成します。

ボタンSUBMIT上で動的アクションの作成を実行します。

識別のタイトルはClick Submitとします。タイミングはデフォルトで、イベントがクリック、選択タイプはボタン、ボタンとしてSUBMITが設定されます。



TRUEアクションの識別の名前はCall Graph API、アクションとしてリフレッシュを選択します。



以上でGraph APIを呼び出して応答を確認するページは完成です。

ページを実行し、テストしてみます。

最初にGraph APIとして以下を指定し、結果を確認します。

ユーザーが所有しているドライブの一覧を取得します。

<https://graph.microsoft.com/v1.0/me/drives>



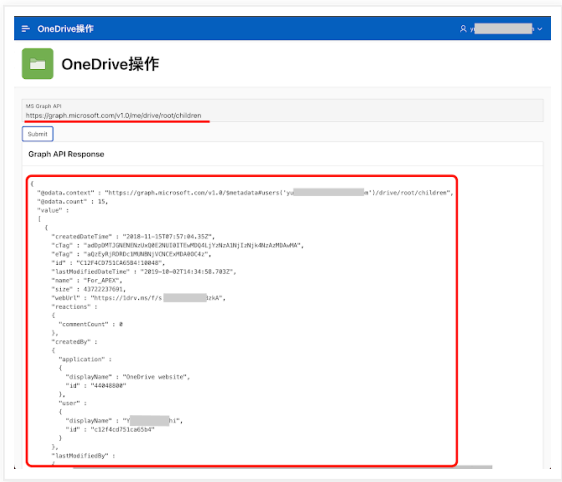
JSON形式の応答が表示されます。この出力結果はアプリケーションを作る際に使用するため、コピーしてファイルに保存します。

例えば、**drives.json**というファイルに保存しておきます。

ドライブのルートにあるファイルを取得します。

<https://graph.microsoft.com/v1.0/me/drive/root/children>

こちらでもJSONの応答を確認できます。



こちらのJSON形式の応答もファイルに保存しておきます。

例えば、**root.json**として保存しておきます。

サインインしたユーザーが所有しているOneDrive上のファイルの一覧を、Microsoft Graph APIを呼び出して取得できることが確認できました。

次の記事では、上記のAPI呼び出しで取得できるファイルの一覧を対話モード・レポートで表示します。レポートで表示するにあたって、RESTデータ・ソースを作成します。

続く

Yuji N. 時刻: 17:42

共有

ウェブ バージョンを表示

自己紹介

Yuji N.

日本オラクル株式会社に勤務していて、Oracle APEXのGroundbreaker Advocateを拝命しました。こちらの記事につきましては、免責事項の参照をお願いいたします。

詳細プロフィールを表示